

## 3. 活動のポイント

### 3-1 市内で見ることのできる代表的な生き物

樹林地や農地、河川や公園、住宅地や工業用地に再生された緑地や水辺などを含め、人がかかわることで成り立つ様々な自然環境があり、多くの生き物が暮らしています。市域全体では、これまで数千種におよぶ様々な生き物が確認されています。

そこで、樹林、草はら、水辺などの環境で見ることができる代表的な生き物を紹介します。

## 主に樹林で見ることができる生き物-1



### 都市公園などの植栽地

鳥類では、シジュウカラ、メジロ、コゲラの小鳥など。  
昆虫では、セミの仲間や公園の緑化樹や街路樹を食樹としているアオスジアゲハやムラサキツバメなど。  
各種の花では、アゲハチョウの仲間やコガネムシの仲間など。



**コゲラ**  
 ・全長 15cm前後で日本で最も小さいキツツキ  
 ・鳴き声 ギーギーやギィギィ



**シジュウカラ**  
 ・全長 13-16.5cm  
 ・鳴き声 囀り：ツピツピツピツ 地鳴き：ツーツーやチュクチュク



**メジロ**  
 ・全長 12cm前後  
 ・鳴き声 囀り：チーチュル、チーチュルル 地鳴き：チー



**ヒヨドリ**  
 ・全長 27-28cm前後  
 ・鳴き声 ビーヨ、ビーヨ、キュルキュルキュル



**シロテンハナムグリ**  
 ・体長 25mm前後  
 ・成虫出現期 5月-9月  
 ・環境 主に雑木林



**アオドウガネ**  
 ・体長 18-25mm前後  
 ・成虫出現期 5月-10月  
 ・環境 主に林縁



**アブラゼミ**  
 ・体長 56-60mm前後  
 ・成虫出現期 7月-9月  
 ・鳴き声 ジー…シリシリシリ…



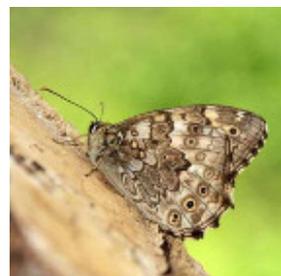
**ミンミンゼミ**  
 ・体長 35mm前後  
 ・成虫出現期 7月中旬-9月  
 ・鳴き声 ミーンミンミンミー



**アオスジアゲハ**  
 ・前翅長 30-45mm前後  
 ・通常年3回発生  
 ・食樹 クスノキ、タブノキ等



**アゲハ**  
 ・前翅長 40-60mm前後  
 ・通常年5~6回発生  
 ・食樹 ミカン類



**サトキマダラヒカゲ**  
 ・前翅長 26-39mm前後  
 ・通常年2回程度発生  
 ・食樹 ササ類



**コムシジ**  
 ・前翅長 22-30mm前後  
 ・通常年3回発生  
 ・食樹 ハギ類など

## 主に樹林で見ることができる生き物-2



### 雑木林などの既存林

鳥類ではキツツキの仲間のアオゲラやアカゲラ、ヤマガラやエナガなどの小鳥。それらを捕食するオオタカなどの猛禽類もまれに見ることができます。春にはウグイスがさえずり、冬には冬鳥のシメヤシロハラなど。

昆虫では、エノキの周りを金属光沢を輝かせてタマムシが飛び、コナラやクヌギの樹液にはカブトムシやクワガタムシの仲間、ルリタテハやヒカゲチョウなど。



**オオタカ 環境RL・県RL**  
 ・全長 雄50 雌58cm前後  
 ・鳴き声 キーキー、キッキキ



**ヤマガラ**  
 ・全長 14cm前後  
 ・鳴き声 囀り：ツーツーピー  
 ・地鳴き：ツイツツイ、ニーニー等



**アオシ 県RL**  
 ・全長 16cm 前後  
 ・鳴き声 チョッピーチョコ、チクイチリリやチツと鳴く



**エナガ**  
 ・全長 13.5cm前後  
 ・鳴き声 チーチーチー、チャッチャツ、ツリリージュルリ



**ウグイス**  
 ・全長 14-16cm前後  
 ・鳴き声 囀り：ホーホケキョ ケキョケキョ 地鳴：チャッチャツ



**ヒグラシ**  
 ・体長 雄28-38 雌21-25mm  
 ・成虫出現期 6月-9月  
 ・鳴き声 カナカナカナ...



**ヤマトタマムシ 県RL**  
 ・体長 25-40mm前後  
 ・成虫出現期 6月-9月  
 ・環境 エノキ等のある雑木林



**カブトムシ**  
 ・体長 32-53mm角除く  
 ・成虫出現期 6月-8月  
 ・環境 主に雑木林



**コクワガタ**  
 ・体長 雄17-45 雌20-28mm  
 ・成虫出現期 5月-9月



**ルリタテハ**  
 ・前翅長 25-45mm前後  
 ・年2~3回発生  
 ・食草 サルトリイバラ等



**キンラン 環境RL・県RL**  
 ・草丈 40-80cm前後  
 ・多年草  
 ・花期 4月-6月



**タモカンアオイ 県RL**  
 ・草丈 10-20cm前後  
 ・多年草  
 ・花期 4月

注) **環境RL** : 「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種リスト(第4版レッドリスト)掲載種  
**県RL** : 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006年」掲載種

## 主に草はらで見ることができる生き物 - 1



### 都市公園などの草はら

鳥類では、ムクドリやカワラヒワなどが、冬にはジョウビタキやツグミなど。  
昆虫では、草原の花に各種のチョウ類やハナムグリの仲間などが、秋にはバッタやコオロギの仲間など。



ジョウビタキ (冬鳥)  
・全長14cm前後  
・鳴き声 ヒッ、ヒッ、カッ、カッ、カッ



ムクドリ  
・全長 24cm 前後  
・鳴き声 キュルキュル、リューリュー



カワラヒワ 県RL  
・全長 14cm前後  
・鳴き声 囀り：チョンチョン  
シューイン 地鳴：キリリ、コロコロ



ツグミ (冬鳥)  
・全長 24cm前後  
・鳴き声 クワックワックやクイックイック



ショウリョウバッタ  
・体長 雄40-50 雌75-80mm  
・成虫出現期 5月-11月



オンブバッタ  
・体長 雄20-25 雌40-42mm  
・成虫出現期 5月-11月



ナナホシテントウ  
・体長 5-9mm前後  
・年2回発生  
・成虫出現期 3月-11月



モンシロチョウ  
・前翅長 20-30mm前後  
・通常年6~7回発生  
・食草 アブラナ科の栽培種等



ベニシジミ  
・前翅長 15mm 前後  
・通常年4~6回発生  
・食草 スイバ、ギンギン等



ヤマトシジミ  
・前翅長 9-16mm前後  
・通常年5~6回発生  
・食草 カタバミ



タチツボスミレ  
・草丈10-30cm前後  
・多年草  
・花期 4月-5月



ホトケノザ  
・草丈 10-30cm前後  
・2年草  
・花期 3月-6月

注) 県RL：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006年」掲載種

## 主に草はらで見ることができる生き物－2



### 河川敷などの草はら

鳥類では、キジやモズなどが生息し、まれにヒバリや夏のヨシハラではオオヨシキリなど。  
昆虫では、草原の花にジャコウアゲハやキアゲハなどの各種のチョウ類が訪花し、秋にはバッタやコオロギの仲間など。



**キジ**  
 ・全長 雄81 雌58cm前後  
 ・鳴き声 雄ケーン 雌チョッ・チョッ



**モズ 県RL**  
 ・全長 19-20cm  
 ・鳴き声 ギチギチギチギチ



**オオヨシキリ (夏鳥) 県RL**  
 ・全長 18.5cm前後  
 ・鳴き声 ギョギョギョ、ギョギチ、ギョギチ



**ヒバリ 県RL**  
 ・全長 17cm前後  
 ・鳴き声 囀り：上空でピーチュルピーチュルなどと鳴く



**ハネナガイナゴ 県RL**  
 ・体長雄17-34 雌21-40mm  
 ・成虫出現期 8月-11月  
 ・環境：溼生草地



**クビキリギス**  
 ・体長 27-34mm内外  
 ・成虫出現期 9月-7月  
 ・鳴き声 ジー（春～初夏）



**トノサマバッタ**  
 ・体長 雄35-40 雌45-65mm  
 ・成虫出現期 7月-11月



**ジャコウアゲハ**  
 ・前翅長 45-65mm前後  
 ・通常年3～4回発生  
 ・食草 ウマノスズクサ類



**キアゲハ**  
 ・前翅長 40-60mm前後  
 ・通常年2～4回発生  
 ・食草 セリ、ミツバ、パセリ等



**ツマグロヒョウモン**  
 ・前翅長 38-45mm前後  
 ・多化性  
 ・食草 スミレ類



**ホタルブクロ**  
 ・草丈 40-80cm前後  
 ・多年草  
 ・花期 6月-7月



**オカトラノオ**  
 ・草丈 60-100cm前後  
 ・多年草  
 ・花期 6月-7月

注) 県RL：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006年」掲載種

## 主に水辺で見ることができる生き物 - 1



### 都市公園などの水辺

鳥類の水飲みや水浴びの場にもなり、カルガモ、コサギ、ハクセキレイなどの水鳥。

昆虫では、アメンボの仲間やシオカラトンボやショウジョウトンボなどのトンボの仲間。スイレンなどの水草が植えてある池では、ギンヤンマやイトトンボの仲間など。



カルガモ  
 ・全長 60cm内外  
 ・鳴き声 ゲッグエツ



コサギ  
 ・全長 55-65cm  
 ・鳴き声 コアーゴアー



キセキレイ 県RL  
 ・全長 20cm 内外  
 ・鳴き声 チチンチチン



ハクセキレイ  
 ・全長 21cm内外  
 ・鳴き声 チィチィン、チィチィン、チュイリー



カワセミ  
 ・全長 17cm内外  
 ・鳴き声 ツッチーやチーツ



クサガメ  
 ・全長 雄20cm 雌30cm前後  
 ・環境 河川、池沼、水田等



アメンボ  
 ・全長 11-16mm前後  
 ・成虫出現期 3月-11月  
 ・環境 流れの無い池や沼



ギンヤンマ  
 ・全長 75mm前後  
 ・成虫出現期 5月中旬-10月  
 ・環境 開放的で水草の茂る池



シオカラトンボ  
 ・全長 50-55mm前後  
 ・成虫出現期 4月下旬-10月  
 ・環境 開放的な様々な池



ショウジョウトンボ  
 ・全長 44-55mm前後  
 ・成虫出現期 5月-10月中旬  
 ・環境 開放的な様々な池



アキアカネ  
 ・全長 34-45mm前後  
 ・成虫出現期 6月-11月中旬  
 ・環境 様々な池、水田、湿地



コシアキトンボ  
 ・全長 40-45mm前後  
 ・成虫出現期 6月-10月上旬  
 ・環境 木陰のある池沼

注) 県RL : 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006年」掲載種

## 主に水辺で見ることができる生き物－2



### 河川や湿地などの水辺

鳥類では、サギやカモの仲間やカワセミなどの水鳥。  
 春には、アズマヒキガエルやヤマアカガエルなどのカエルの仲間。  
 昆虫では、アメンボの仲間や緩やかな流れを好むオニヤンマやハグロトンボ、水草などに産卵するオオアオイトトンボやアジアイトトンボなど。



アオサギ  
 ・全長 90-100cm  
 ・鳴き声 ゴアー



ダイサギ  
 ・全長 80-100cm  
 ・鳴き声 ゴアーッやグワッ



コガモ (冬鳥)  
 ・全長 34-38cm  
 ・鳴き声 雄 ビリッ ビリッ 雌 グエーッ



アズマヒキガエル 県RL  
 ・全長 34-38mm  
 ・鳴き声 クッククウ、グウグウ・卵塊：ローブ状



ニホンアカガエル 県RL  
 ・全長 35-75mm  
 ・鳴き声 キョッキョッ  
 ・卵塊 球状



シュレーゲルアオガエル 県RL  
 ・全長 30-55mm  
 ・鳴き声 キリリリリ、カラララ  
 ・卵塊 クリーム色泡状



オオアメンボ 県RL  
 ・全長 19-27mm前後  
 ・成虫出現期 5月-10月  
 ・環境 流れの少ない池や沼



オニヤンマ  
 ・全長 90-110mm前後  
 ・成虫出現期 6月-9月  
 ・環境 水のきれいな小川



オオアオイトトンボ  
 ・全長 42-52mm前後  
 ・成虫出現期 6月-11月上旬  
 ・環境 水際に樹木がある池



ハグロトンボ 県RL  
 ・全長 58-65mm前後  
 ・成虫出現期 5月中旬-10月  
 ・環境 小川から大河川



オモダカ  
 ・草丈 20-80cm前後  
 ・多年草  
 ・花期 8月-10月



セリ  
 ・草丈 20-50cm前後  
 ・多年草  
 ・花期 7月-8月

注) 県RL：「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006年」掲載種

## 3-2 生き物の観察方法

私たちが、普段利用している公園や郊外の緑地や河川敷などには、それぞれの環境に応じて数多くの生き物が暮らしています。

普段見なれた生き物も、はじめて見る生き物も、目的をもって観察すると、色や形、行動など素晴らしい発見があります。

観察の心構えやポイントを学んで生き物の観察に出かけましょう。

### (1) 3つの心構え

#### 1) やさしい気持ちで生き物に接しよう

生き物を探したり観察したりしていると、注意をしても生き物や環境に影響を与えてしまうことがあります。生き物を探し観察する時は、できるだけ生き物が暮らしている環境を壊さないように心がけましょう。

小さな生き物は、観察ケースなどに入れて名前を調べますが、観察が終わったら、もとの場所に放してあげましょう。

石や朽木くちぎの下などには、ゴミムシの仲間などが潜んでいるため、これらを持ち上げて探しますが、持ち上げた石や朽木はそっともとの場所に戻しましょう。

春から初夏は多くの生き物を観察できますが、鳥たちの子育ての季節でもあります。野鳥の巣を見つけたら、近づかずに物陰や遠くから双眼鏡などを使って観察するようにしましょう。

#### 2) 観察のマナーを守ろう

観察する時は、私有地内に無断で入ったり、立入禁止の場所などには入らないようにしましょう。

公園など、場所によっては生き物の採取や捕獲が禁止されていることがあります。必ずその場所のマナーやルールを確認しましょう。

ゴミや観察に使った用具などは、必ず持ち帰りましょう。

#### 3) 無理のない計画と安全を心がけよう

気持ちや時間に余裕がないと、十分な観察はできません。また事故やけがの原因にもなります。

自然観察に出かける時は、余裕のあるスケジュールを組み、行く場所は十分に下調べをすることが大切です。また、子どもやはじめて生き物の観察をする人は、保護者や指導者と一緒に活動するようにしましょう。

また、自然の中には、人に害を与える恐れのある危険な生き物もいます。正しい知識を持った指導者に従いましょう。

(注意事項の一例)

- ・カブトムシやクワガタムシを観察する際は、スズメバチと一緒に樹液に集まってくる場合がありますが、驚かせると危険を感じて襲ってくる場合があります。スズメバチがいる時は、静かにその場から移動することが良いでしょう。
  - ・昆虫ではドクガの仲間、植物ではウルシの仲間などは、素手で触れるとかぶれることがあるので十分に注意しましょう。もし触ってしまったら、こすらないで洗い流しましょう。
  - ・観察したい動物や植物が見つかったも、水辺や崖地、線路沿いなど危険な場所には、絶対に近づいてはいけません。
  - ・観察に行く時は、観察用具等を準備し、観察に適した服装で出かけましょう。
- 以下はチェックリストの一例です。参考にしてください。

観察用具		
<input type="checkbox"/>	観察ノート・記録ノート	ポケットに入るような小さなノート等
<input type="checkbox"/>	筆記用具	濡れても書けるもの 鉛筆やシャープペンシルなど
<input type="checkbox"/>	図鑑・ガイドブック	各種ポケット図鑑・ガイドブック等
<input type="checkbox"/>	虫めがね・ルーペ・双眼鏡	虫めがねやルーペ。鳥類の観察には双眼鏡があると便利
<input type="checkbox"/>	観察ケース	生き物を入れて詳細が観察できるケース ルーペ付きなどもある
<input type="checkbox"/>	モノサシ	生き物の大きさを測るためがあると便利
<input type="checkbox"/>	ビニル袋・輪ゴム・紐	ゴミやぬれた物などを入れる
<input type="checkbox"/>	カメラ	生き物や環境を映像で記録する
服装など		
<input type="checkbox"/>	上着	長袖、えり付き(キズやかぶれ防止)でポケットが大きく多いもの
<input type="checkbox"/>	ズボン	長ズボン(キズやかぶれ防止)で動きやすいもの
<input type="checkbox"/>	靴など	丈夫で滑りにくい靴底のもので紐靴が安全 水辺での観察では長靴
<input type="checkbox"/>	帽子	刺し虫や熱射病対策
<input type="checkbox"/>	水筒	季節にかかわらず必要
<input type="checkbox"/>	リュック	歩いたり観察したりする時に両手が使えるように
<input type="checkbox"/>	その他	軍手・ゴム手袋、雨具、懐中電灯、救急セット、タオル・ハンカチ、ポケットティッシュ・ウエットティッシュなど



観察用具など

## (2) 5つの行動

### 1) 観察する場所や時期を調べてから行動しよう

観察する生き物によって観察の方法や場所、時期が異なるので、事前に調べてから行動すると良いでしょう。主な生き物の観察場所や季節を示しましたので参考にしてください（P18 主な生き物の観察方法）。

また、生き物の観察は、できるだけ晴天で暖かい日に行うと良いでしょう。

### 2) まずは大まかな見分け方を覚えよう

生き物の観察は名前を覚えることから始まりますが、よく似た生き物が多いため、見分けることは簡単ではありません。はじめから細かく調べるのではなく、まずは「〇〇の仲間」というふうに、大まかな見分け方を覚え、少しずつ慣れていくことが大切です。大まかな見分け方がわかってくると、図鑑で名前を調べることも早くできるようになります。

観察会などに参加して、詳しい人に見分け方などを聞くと良いでしょう。

### 3) 体の呼び方を知ろう

生き物の観察では、その場で名前がわからない場合がありますが、観察した生き物の特徴を記録しておくことで、後から調べることができます。

観察した生き物の形や模様、色などを記録するときに、体のつくりや部分の名前を知っていると便利です。

「はねの表は全体が白く、前ばねの先が黄色いチョウ」とか、「足の先が黄色いサギの仲間」というふうに、記録することをおすすめします。

動植物図鑑などには、体の部位の名前が分かりやすく書かれているものもあるので、図書館などで調べてみましょう。

### 4) 生き物を「ものさし」として使おう

生き物の大きさ（体長や全長など）は、名前を知る大きな手がかりとなります。

昆虫などは、観察ケースなどに入れて大きさを測りましょう（体長は生き物によって測る場所や測り方が違うので気を付けましょう）。

実際に測ることが難しい鳥の仲間などは、日ごろよく見ているスズメ、ハト、カラス、カルガモなどを「ものさし」として使い、「スズメより大きくムクドリより小さい」や「ハトより少し小さい」というふうに記録しましょう。

### 5) 記録に残そう

観察した生き物の名前を知ることだけでも楽しいことですが、観察した生き物を記録し、積み重ねると、観察した地域にどのような生き物が暮らしているかがわかり、地域の生態系や生き物を守ることに役立つことがあります。

観察した生き物は、積極的に記録として残しておくことをおすすめします。

記録には、観察場所、観察者、観察日時、天気、生き物の名前などを記録します。生き物の名前がわからない場合は、写真やスケッチで特徴を記録すると良いでしょう（P19 生き物観察・記録シート記載例参照）。

### 「デジタルカメラの活用」

生き物の特徴を記録する時は、デジタルカメラで撮影すると、形や色、模様などが一度に記録できるため大変便利です。積極的にチャレンジしてみましょう。

（撮影するときのポイント）

- ・近寄ることが難しい場合は、望遠機能を使って、できるだけ大きく写るように心がけましょう。
- ・両生類を撮影する時は、腹部の模様を見ないと種の名前が正確にわからないことがあるため、一時的に捕獲できれば観察ケースなどに入れ、腹面も含めて様々な角度から撮影しましょう。また、卵（卵塊）なども撮影しておきましょう。
- ・昆虫など小さい生き物を撮影する時は、接写モードで様々な角度から撮影しましょう。
- ・トンボの仲間は、胸や腹の模様で種を調べることが多いため、トンボの横から胸や腹の模様がわかるように撮影しましょう。
- ・チョウの仲間は、はねの模様で種を調べることが多いため、はねの表や裏の模様がわかるように撮影しましょう。
- ・バッタ、カメムシ、コウチュウなどの仲間も、背面や側面など様々な角度から撮影しておきましょう。一時的に捕獲できた生き物は、観察ケースなどにいれてじっくり観察し、様々な角度から撮影しましょう。

生き物の写真のほかに、生き物を見つけた場所や周りの様子も撮影しておきましょう。家に帰ったら、撮影日や撮影場所ごとに整理することも忘れないようにしましょう。

※生き物の写真を撮影するために、事業所や個人宅等に無断で立ち入ったり、のぞきこんだりしないようにしましょう。

### 「スケッチをしてみよう」

スケッチを描くためには、「葉や花の形の違いや花びらの数」「虫のからだの仕組み」「足の数」などを詳しく観察することが必要になります。

特に、触っても逃げたりしない植物などは、スケッチに向いています。

一度スケッチした生き物は、いつまでも覚えていることでしょう。

## 主な生き物の観察方法

観察対象		観察方法	主な観察場所		主な観察時期（目安）															
					1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
動物	哺乳類	●タヌキなどの哺乳類は、夜間活動する種が多いため姿を観察することが難しい生き物です。哺乳類の観察は、主に足跡や糞、食痕を見つけて、それらの痕跡から種を調べます。	●タヌキなど	●水辺・林床																
			●コウモリ	●広場・草はら																
	鳥類	●鳥の仲間には、一年中その場所で暮らす留鳥、夏に渡ってくる夏鳥、冬に渡ってくる冬鳥、旅の途中で立ち寄る旅鳥などがいます。 ●それぞれ適した時期に、鳴き声や姿を観察して種を調べます。	●サギ ●カモ ●チドリ	●水辺・海岸																
			●タカ ●シジュウカラ などの野鳥	●林・林縁・草はら																
	爬虫類	●爬虫類は、見つけることが難しい生き物です。水辺や林縁などを歩いたり、石垣や倒木などで姿を観察して種を調べます。	●ヘビ	●水辺や水辺周辺の草はら ●石垣や倒木																
			●トカゲ	●日当たりの良い草はらや裸地 ●石垣や倒木																
			●ヤモリ	●公園の樹名板の裏 ●コンクリートブロックなどの水抜きパイプの中																
			●カメ	●水辺																
	両生類	●両生類は、卵から幼生（オタマジャクシ）の時期を水中で過ごし、カエルになると林の中で過ごすようになります。 ●両生類の観察は、カエルが卵を産みに来る時期に、鳴き声や卵やカエルの姿を観察して種を調べます。	●カエル	●水辺 ●水辺周辺の草はら																
	昆虫類	●昆虫類は、多くの種が棲んでおり、それぞれの仲間によって観察の場所や時期、方法などに違いがあります。 ●トンボ、チョウ、コウチュウ、バッタ、多くのカメシなどの仲間などは、その場で姿を観察したり、一時捕獲して観察ケースなどに入れて種を調べます。 ●セミ、コオロギ、キリギリスなどの仲間は、鳴き声や姿を観察して種を調べます。	●トンボ	●水辺 ●水辺周辺の草はらや林縁																
●バッタ			●草はらや林縁 ●石や倒木の下																	
●チョウ			●花が咲いている草はらや林縁 ●樹液が出ている木がある林内																	
●コウチュウ			●花が咲いている草はらや林縁 ●樹液が出ている木がある林内 ●朽木や枯れ木・倒木																	
●カメシ			●草はらや林縁 ●林内（セミに仲間）																	
●水生昆虫			●水辺																	
植物	●植物の種を、正しく調べるためには、花を観察する必要があります。 ●それぞれに花が咲く時期に観察して種を調べましょう。	●水辺、草はら、林縁、林床																		

生き物観察・記録シート記載例

観察地	黒川海道特別緑地保全地区	観察日	2014年12月9日	観察者	鳥山雲雀
環境	樹林地	天候	晴れ	その他	川崎市鳥類観察会
種名		不明種の大まかなグループ	キツツキの仲間		
不明種の特徴		スケッチ			
大きさ	ヒヨドリより少し大きい				
色	背中や翼が黄緑色 頭が赤い				
模様	腹が黒いしま模様				
鳴き声	ピョーピョーピョー				
行動	木の幹をくちばしで叩いていた				
その他	ドロドロ……と幹を叩く音が聞こえた				

観察地	緑ヶ丘霊園	観察日	2014年4月28日	観察者	虫山蝶太郎
環境	草はら	天候	晴れ	その他	
種名		不明種の大まかなグループ	シロチョウの仲間		
不明種の特徴		スケッチ			
大きさ	モンシロチョウより少し小さい				
色	白色 翅の先が黄橙色				
模様	裏面が雲状の模様				
鳴き声	—				
行動	菜の花で吸蜜				
その他	直線的に飛んでいた				